

耕畜連携の新たな取り組み - 飼料米の検討 -

農業経営課 大津地域経営指導担当

【普及活動のねらい・対象】

大津地域（大物集落ほか）では、配合飼料価格の高騰による畜産経営への影響を軽減すると共に生産調整の新たな方策を検討するため耕畜連携（採卵鶏への水稻粃給餌）による「飼料米」生産が計画されました。そこで、耕畜連携への取り組みを円滑に進めるため品種の選定、施肥体系の検討や飼料米（粃）の給与等に取り組みました。

【普及活動の成果】

品種の選定と施肥体系の検討

- ・ 供試品種：（専用 杓アハ、竹村ミ、竹ノ杓）（食用 ゆめおうみ、吟おうみ、日本晴）
- ・ 施肥：乾燥鶏糞（現物N2.6-P4.7-K2.0%）を作付け前に800kg～2,000kg/10a施用
その他 硫安を20kg～60kg/10a施用
- ・ 専用品種は地力の低い水田では相当量の施肥量が必要で、流通体系もふまえて地域にあった品種選定が重要です。

「飼料専用品種と主食用品種との比較」

	専用品種	主食用多収品種
施肥	（施肥量が一定必要）	
収量性		（専用品種と同等）
収穫時期	～（10月上収穫が望まれる）	
こまが被害	（茎が太く被害受けやすい）	
漏生粃	（次年度以降に主食用品種を作付ける場合は混ざる）	
施設対応	（主食用とのコンタミ）	
流通段階の区分		（主食用と明確な区分必要）

低コスト化のための立毛乾燥の検討

- ・ 出荷条件：粃出荷、収穫時期を成熟期後2週間、水分目標を20%以下。
- ・ 収穫作業は、9月28日から10月29日まで実施後、即養鶏農家に粃出荷。
- ・ 天候にも恵まれ出荷水分も17%程度にまで下がりました。しかし、高水分粃が一部で発生したため、早期給与する事によりカビの発生を防止しました。
- ・ 低コストで安定した立毛乾燥を行うには、この地域特有の時雨を回避するためにも10月上旬までに収穫が可能な作付体系・品種の導入が重要です。

飼料米（粃）混合のエサ給与

- ・ 畜産農家（採卵鶏飼育羽数10,000羽程度）では9月28日より1日当たり150kg（全量の15%相当）の飼料米（粃）混ぜたエサを自家配合し給与を実施してきました。
- ・ 給与結果から飼料米（粃）混合のエサは、嗜好性も高く、産卵率、事故率、卵重、ハウユニット、卵黄色、卵殻強度、卵殻厚に大きな変化も与えないことが実証され、飼料費を12.8%削減できました。



耕畜連携による「飼料米（粃）」生産は、飼料費低減技術としてその普及拡大につながると期待しています。